

福岡ハートネット病院 訪問診療部門のありたき姿

地域連携支援部 大森崇史



FUKUOKA HEARTNET HOSPITAL

在宅医療部門の使命

- 訪問診療を通じて「一人ひとりの生き方を支え、街づくりに貢献する」という病院全体のスローガンを実現する
- 総合診療を志向し、西区の在宅医療におけるハブ機能や、地域の診療の質を高める教育機能を提供する



つよく やさしく ざいたく

- 幅広い疾患・病態に対応でき、医療用の麻薬や心不全治療などの難易度の高い医療提供も可能で、質の高い医療を提供する「**つよい在宅**」
- 卓越したコミュニケーションスキル、ユマニチュードに基づいたケア、必要時は入院できる環境の整備を通じた安心感を提供する「**やさしい在宅**」

基本方針

1. 質の高い在宅医療
2. 持続可能な部門体制
3. スタッフの成長支援



ありたき姿

1. 質の高い在宅医療

質の高い医療という表現は曖昧で目標設定が不明瞭になりやすい。在宅医療の質について現状分析と文献的考察を踏まえ定義し、定量化できる指標を用いて診療の質をモニタリングする。

施策

- 在宅医療の質を定義
- 在宅医療の質を年2回評価行う
- 質指標を高めるために必要な施策を考案し、2025年度の事業計画に反映させる



2. 持続可能な部門体制

訪問診療部門は創業期から成長期に移る過渡期にある。
現状の課題を分析し、持続可能な部門体制を構築する

施策

- 診療事業継続性に関するもの
 - BCPの策定
- 管理事業継続性に関するもの
 - はたらきやすい職場環境の整備
 - DXの推進と業務効率化
 - 戦略的な人材採用・育成



3. スタッフの成長支援

高度化・多様化・複雑化する在宅医療・介護需要に対応できる人材を育成する

施策

- 緩和医療専門医、総合診療専門医取得の支援と施設認定
- 大学院進学への支援
- 自己研鑽研修制度



在宅医療部門
2026年3月 ありたき姿



「一人ひとりの生き方を支え、街づくりに貢献する」ために在宅医療部門はなぜ必要なのか？

1. 複雑化する医療介護の外部環境への対応

- a. 社会保障費の上昇を抑えるため過不足ない診療が求められ入院から在宅への移行が推進される
- b. 病院の機能分化が進み、中小病院には総合診療、リハビリ、訪問診療の機能が求められる
- c. 福岡の訪問診療ニーズは2042年まで増え続けると予想されている

2. 地域の医療ニーズへの対応

- a. 在宅医療によって住み慣れた自宅で最期まで過ごしたい、という思いを実現することができる
- b. 福岡市は看取り数が他地区とくらべ少ない

3. 事業継続性のため

- a. 病院が存続することが、地域の貢献につながるという思いのもと、高齢者施設や訪問看護ステーションとの垂直連携によりサービスの魅力向上につながり、LTVを高める
- b. 規模拡大によって働き方もより柔軟に選択できるようになり、雇用創出につながる



在宅診療部門の目標と体制（2026年3月）

**福岡西エリアの在宅医療の拠点として認知され
地域の在宅医療の活性化・質向上・安定運営・教育を通じ
一人ひとりの行き方を支え、街づくりに貢献する**

- そのために必要な実績
 - 24時間365日対応できる往診体制
 - 訪問患者数 140名/月、看取り数 20名/年
 - 日本緩和医療学会認定研修施設の認定、緩和医療認定医の輩出
 - 総合診療プログラムの連携施設として総合診療専攻医の採用
 - 地域での在宅医療・介護に関する研修会・勉強会開催
 - 在宅医療の質向上に関するプロジェクトの立案



医師の働き方1日

08:30 出勤、病棟回診

09:00 カンファレンス

09:30-12:00 午前訪問診療 1～4件

12:00-13:30 休憩、病棟業務

13:30-16:00 午後訪問診療 1～4件

16:00- カンファレンス等

17:15 終業

週3回カンファレンス（月曜 運営Mt、火曜 循環器Mt、木曜 在宅医療勉強会）

週1外来（水曜）

月1回診療協議会・地域連携Mt、月1-2回デスカンファレンス



職員の教育・研鑽の場として

- 在宅医としての学び
 - 訪問診療医としての経験を積む
 - 地域の医療介護従事者との連携、交流
 - 診療報酬や医療制度の学び（たんぽぽ先生テスト）
- 専門医資格等の取得
 - 緩和医療専門医・認定医；2024年2月 日本緩和医療学会教育認定基幹施設届出予定
 - 総合診療専門医；2024年1月 総合診療特任指導医認定
 - 学位取得支援；九州大学大学院 医療経営管理学専攻など
- 地域での活動
 - 公民館講演
 - 行政と連携したACPの普及活動
 - その他、自分のライフワークに準じた地域貢献活動
- 学会・学術的活動
 - 学会発表、論文執筆支援
 - 学会委員会
 - 心不全緩和ケアトレーニングコースファシリテーター
 - 講演、執筆

